

# 日本橋福德神社の算額について

## 由来

「算額」は神社仏閣に掲げられた絵馬の一種で、額面に数学の問題を載せたものである。この風習は江戸時代以来の数学学者が、自己の研鑽の成果を神仏の前に発表し、その後の精進を神仏に祈念するために行ったものである。算額は「和算」(日本人の伝統的数学)の発展に大きく貢献している。算額の奉納はごく一部の県を除いて北海道から九州まで各地で行われており、埼玉県は現存の算額の数では全国有数を誇っている。

当社の掲額は令和2年1月に埼玉県加須市在住の内田圭一氏が「先人の残してくれた遺産をぜひとも次の時代に継承していきたい。」との思いで、ご縁のあった当社に奉納されたものである。埼玉県の中でも加須市には非常に多くの算額が現存している。算額はいろいろな意味で貴重な歴史資料であるにもかかわらず、年々失われつつあるのが実情である。願文にもあるようにこのことがあまり知られていないことを憂いておられ、加須市の算額のことそして日本人の数学文化についてぜひ多くの人に知っていただきたいとの願いで奉額されている。

実際の算額の文面は漢文の形式で書かれることが多いが、本額は多くの人に問題の内容が理解されるように現代文に書き換えている。

## 算額問題の周辺

たぬがやようさい  
加須市の数学者の系統は旧加須市が溜谷要斎、旧騎西町が都築利治によって盛んになった。明治時代のことである。両名は江戸長谷川道場で2代目長谷川弘に学んでいる。明治12年発行の『社友列名』には、見題免許の欄におそらく要斎と思われる「武藏大越 溜谷與市郎教推 溜谷與市郎者茂木万之助門人也後為直弟」および「武藏種足 都築源右衛門利治」という記述がある。

けんだい いんだい ふくだい べつでん いんか  
閥流免許は見題、隠題、伏題、別傳、印可とあるが、見題は最も最初の段階の免許である。

### 第1問 加須市大字外野二八二一一 棘脱地藏堂

この問題は長谷川弘一松枝誠斎(大里村、現熊谷市)ー島田熊次郎ー島田宇市郎義門、と続く師弟関係でこの宇市郎の弟子で塩田村の塩田喜蔵が明治6年3月に他の門人5名と奉額した中の1問である。

『埼玉の算額』によれば、棘脱地藏堂には全部で5面の算額が記録されているが、現在確認できるのはわずか1面のみである。

### 第2問 加須市多聞寺五七八 愛宕神社

この算額は平成30年に新しく作り直し再奉額されている。明治13年4月の奉額である元の算額は社殿にそのま

ま掲げられており、新算額は境内の社務所に保管されている。問題は加庭国造(加須市多門寺)の門人で南篠崎村大越栄市郎富久のものである。加庭は松枝誠斎ー茂木柳斎(羽生)ー加庭と続く師弟関係である。茂木柳斎は長谷川から隠題免許を受けている。

### 第3問 加須市騎西五五二 玉敷神社

都築利治の門人で、高柳村杉田辰之進の問題で、大正4年10月の奉額である。玉敷神社は延長5年の『延喜式』にその名が見えるほど古くから由緒のある社である。

### 第4問 加須市中種足一二七三 雷神社

この問題も都築の門人である加藤幸輔、坂口宇之輔によって、明治8年3月に奉額されている。3問あるが、どの問題をだれが出題したかについては不明。

いだい  
第5問 この問題は和算の特徴の一つで、遺題と称せられるもので和算の発展に大いに寄与した風習である。この問題にぜひ挑戦して解いてみてほしいというものである。額には遺題とするため奉納地を記していないが、三郷市上彦川戸の香取神社に奉納された算額の問題である。奉納者は金杉清三郎清常(花又村現足立区花畑)門人、同所深井伊兵衛宗階で明治13年2月81歳のときである。この問題にはすでに解法例が50数通り見つかっている有名な問題である。

